

議題 3

今後の方向性について

文部科学省と気象庁は、政府・自治体の気候変動対策推進に貢献するため、関係機関と連携して、以下の取り組みを進める。

【目標 1】

定期的に気候変動の実態と見通しについて総合的に検討し、我が国の気候変動に関する情報の統一的な見解をまとめる。

【目標 2】

各地域や各分野の適応に必要な要素・解像度・予測対象期間を踏まえた我が国の気候予測データセットを整備し、利用者（影響評価研究者や地方公共団体、事業者等）に提供する。

【目標 3】

気候予測データセットの利用者に向けた解説書を作成する。

今後の方針（目標1）

【目標1】 定期的に気候変動の実態と見通しについて総合的に評価し、我が国の気候変動に関する情報の統一的な見解をまとめる。

現状・課題

※番号はP16のニーズと課題に対応

- ①研究成果の活用、気候変動の実態と見通しに関する評価が不十分。
- ②各機関で情報発信するなど、連携が不十分

目的

- 地方公共団体等の政策決定者が気候変動対策に取り組むにあたり、政策判断を行う裏付けとなる我が国の見解をまとめる。
- 気候変動影響評価報告書や気候変動適応計画へのインプット。

当面の計画案（～2020年度）

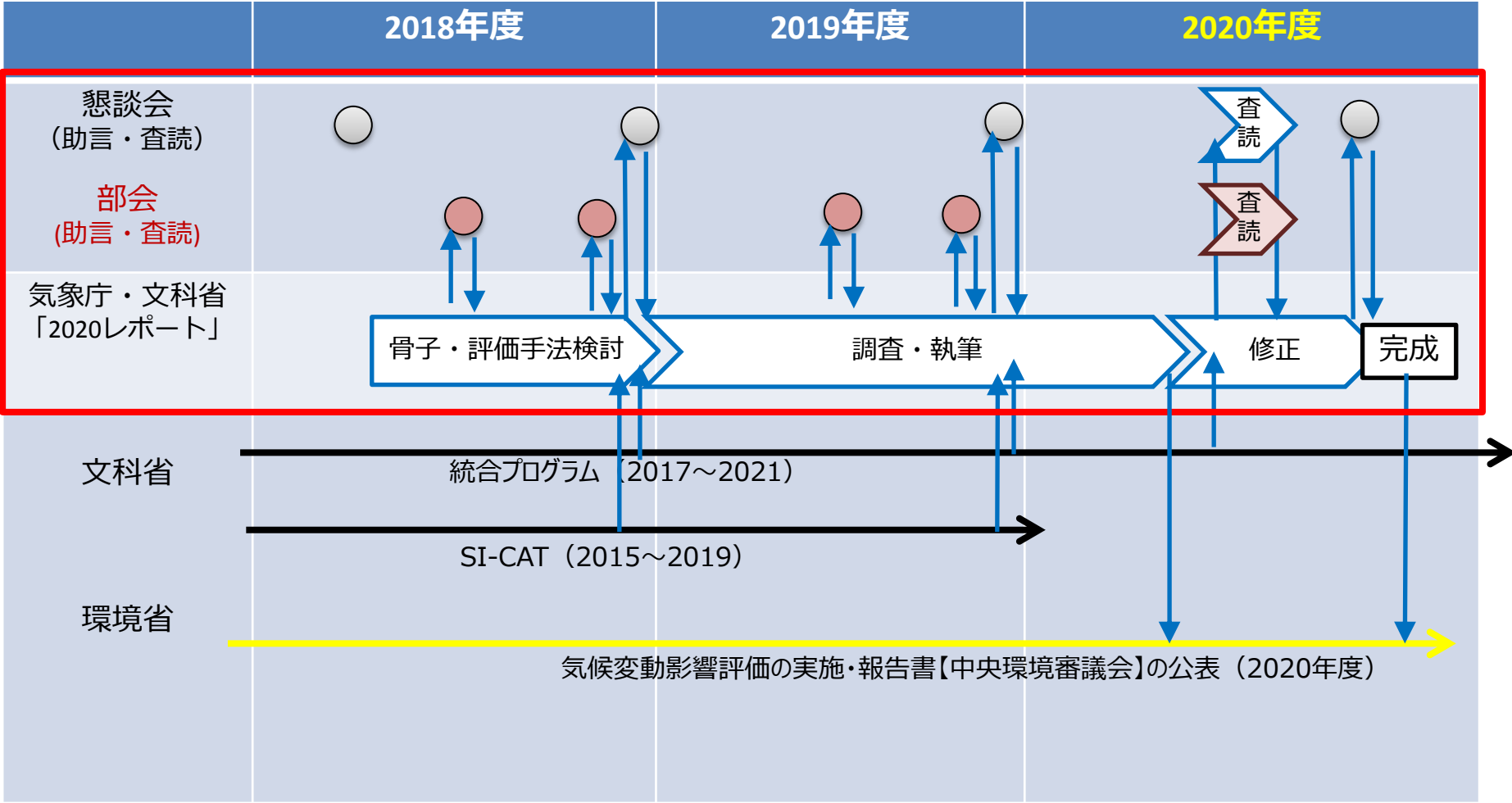
- 気候変動影響評価報告書（2020年予定）、適応計画改訂（2021年予定）等のスケジュールを考慮し、2020年度に1回目の「気候変動レポート」（以下「2020レポート」）をまとめる。
- 気象庁・文部科学省等が実施している研究・監視・予測の成果を中心に作成。
- 「2020レポート」の構成・内容等は、専門家・有識者からの意見を踏まえて検討。

検討事項

- 「2020レポート」の作成に向けた、部会の立ち上げについて。

今後の方針（目標1）：当面のスケジュール案

【目標1】 定期的に気候変動の実態と見通しについて総合的に評価し、我が国の気候変動に関する情報の統一的な見解をまとめる。



今後の方針（目標2）

【目標2】 各地域や各分野の適応に必要な要素・解像度・予測対象期間を踏まえた我が国の気候予測データセットを整備し、影響評価研究者や地方公共団体、事業者等に提供する。

現状・課題

※番号はP16のニーズと課題に対応

- ② 各機関で情報発信、連携不十分。
- ③ 解像度、予測精度が不十分。
- ④ 予測要素が限定的。
- ⑤ 100年後は遠すぎる。
- ⑥ どの予測を使えばよいか分からない。

目的

- 様々な分野の適応策の策定など、利用者の目的に適した気候予測データセットを提供する。

当面の計画案（～2022年度）

- 統合的気候モデル高度化研究プログラム（2021年度終了）のスケジュールを考慮し、2022年度に我が国の基盤的な気候予測データセットとして、気象庁の予測データ、文部科学省の研究プロジェクト（創生・統合・SI-CAT）で得られた予測データを提供する。
- 上述の予測データとそれ以外の気候予測データとの比較等を行い、その特性等を明らかにする（マッピング）。【目標3】の解説書（データカタログ含む）にも反映させる。

今後の方針（目標3）

【目標3】 気候予測データセットの利用者に向けた解説書を作成する。

現状・課題

※番号はP16のニーズと課題に対応

- ⑥ どの予測を使えばよいか分からない。
- ⑦ どの程度信じてよいか分からない。

目的

- 利用者が目的に適した気候予測データを選択することに資する。
- 利用者が気候予測データの信頼性・不確実性を把握し、目的に応じて適切に利用することに資する。

当面の計画案（～2022年度）

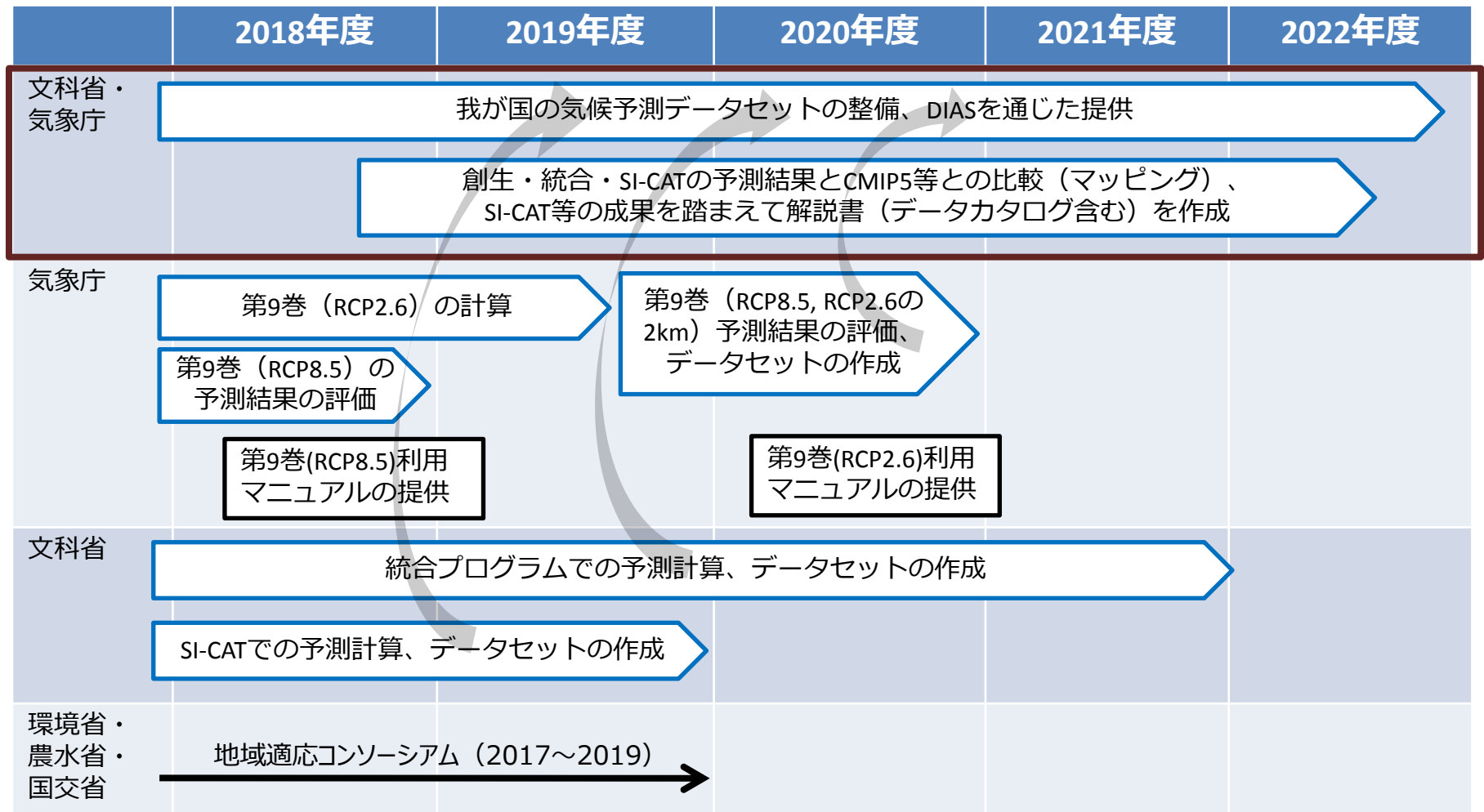
- 解説書のモデル事例として、2018年秋に地球温暖化予測情報第9巻の利用マニュアルを作成。
- 統合的気候モデル高度化研究プログラム（2021年度終了）のスケジュールを考慮し、2022年度に【目標2】のマッピングの結果や、SI-CATの成果、地域適応コンソーシアム事業等の関係省庁の成果も踏まえて、気候予測データセットの解説書（データカタログ含む）を作成する。

今後の検討事項

- 次回第2回懇談会（今年度末）では、【目標2】と【目標3】の具体的な進め方について、将来的な気候予測データセットの内容、提供の仕方、解説書のあり方、関係機関との連携や利用者からのフィードバックの観点からご議論いただく予定。

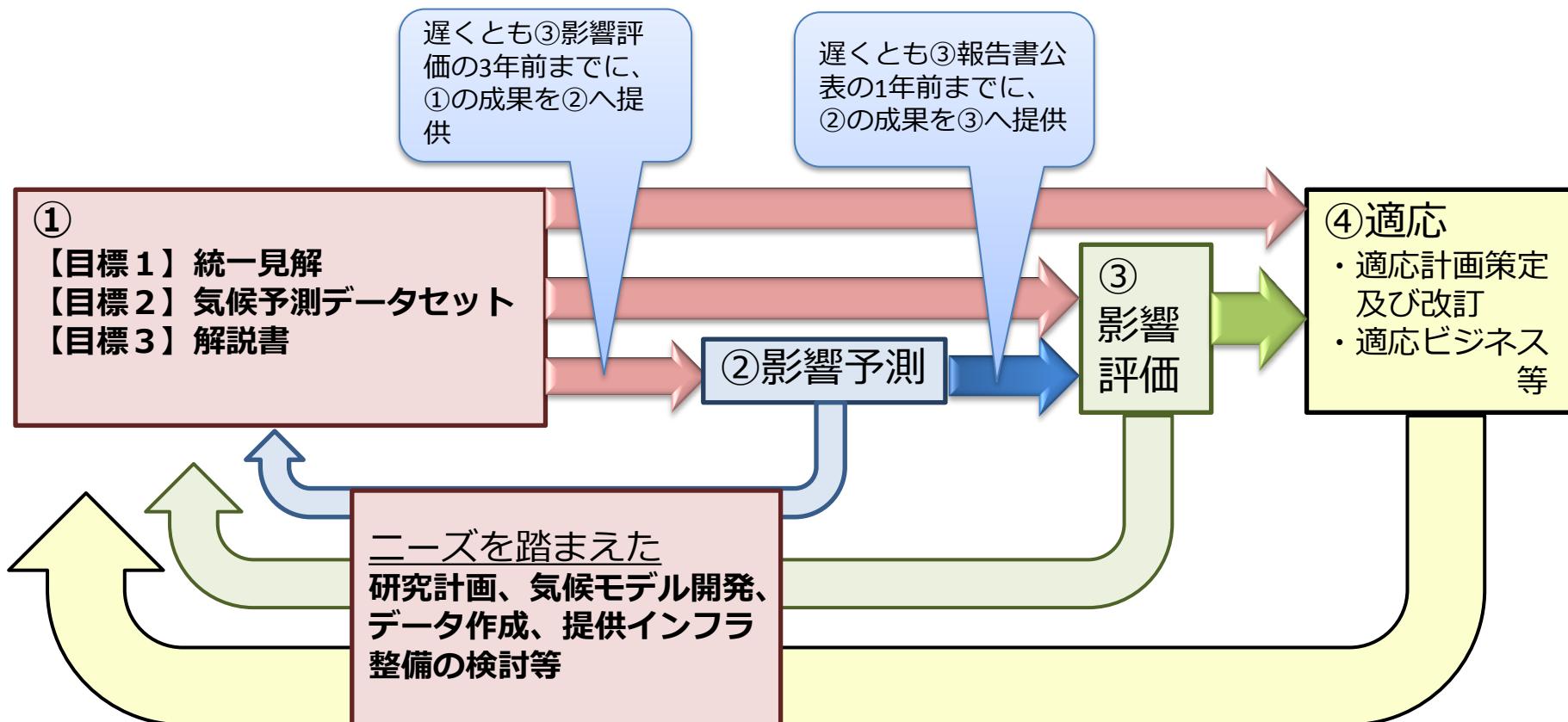
今後の方針（目標2と目標3）：当面のスケジュール案

- 【目標2】** 各地域や各分野の適応に必要な要素・解像度・予測対象期間を踏まえた我が国の気候予測データセットを整備し、影響評価研究者や地方公共団体、事業者等に提供する。
- 【目標3】** 気候予測データセットの利用者に向けた解説書を作成する。

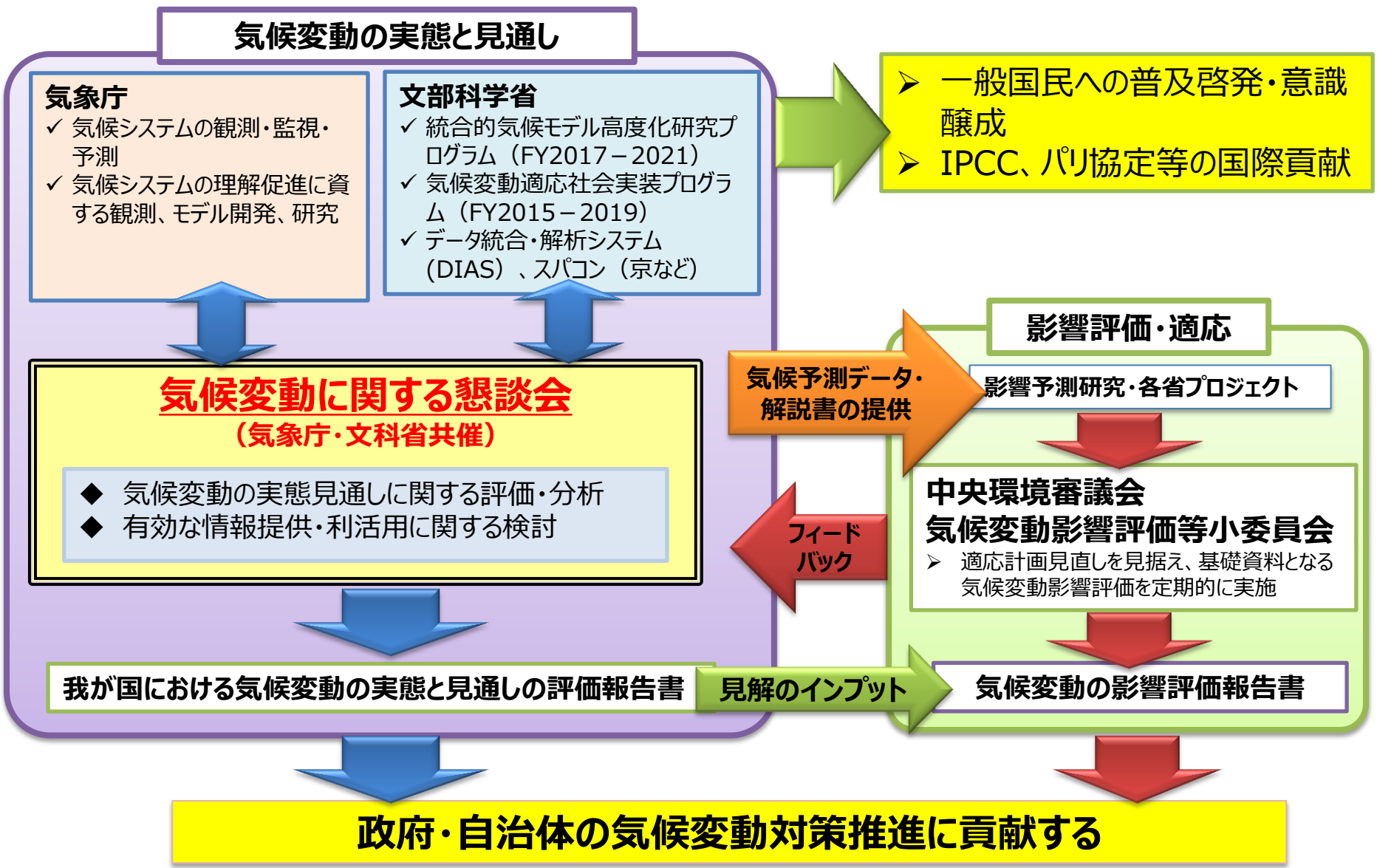


将来的に目指すサイクル

- 関係省庁と連携して、効果的な利用者フィードバックの仕組みを構築し、利用者が求める情報を、使いやすく、分かりやすいかたちで提供することを目指す。
- 影響予測・影響評価・適応策に活用されるタイミングでの提供を目指す。



懇談会の枠組みを活用した気候変動影響分野との連携



- 今後自治体等での適応計画策定の動きが加速する見込み。
- 気候変動対策の最も基礎的な資料である気候変動の実態及び将来予測に関する情報を的確に施策に反映させる必要がある。

適応策策定の観点からの気候変動情報に関するニーズ

- 
- 
- ① 気候変動は自然変動によるものなのか、地球温暖化によるものなのか知りたい
⇒ **研究成果の活用、評価が不十分**
 - ② 気候変動に関してどの情報を利用するの
⇒ **各機関で情報発信、連携不十分**
 - ③ 「わが街」がどうなるか知りたい
⇒ **解像度や予測精度が不十分**
 - ④ 極端現象や海洋等の予測も必要
⇒ **予測要素が限定的**
 - ⑤ 近い将来どうなるかを知りたい
⇒ **100年後は遠すぎる**
 - ⑥ 標準となる気候予測データセットがほしい
⇒ **どの予測を使えばいいかわからない**
 - ⑦ 予測の不確実性を知りたい
⇒ **どの程度信じていいかわからない**

ニーズを踏まえた今後の方向性

- 1** : 定期的に気候変動の実態と見通しについて総合的に検討し、我が国の気候変動に関する情報の統一的な見解をまとめる。
- 2** : 各地域や各分野の適応に必要な要素・解像度・予測対象期間を踏まえた我が国の気候予測データセットを整備し、影響評価研究者や地方公共団体、事業者等に提供する。
- 3** : 気候予測データセットの利用者に向けた解説書を作成する。

文部科学省と気象庁は、「気候変動に関する懇談会」の助言を踏まえて、関係機関と連携して上記の取り組みを進め、政府・自治体の気候変動対策推進に貢献する。